

# 平成22年度 深谷市下水道事業会計 事業報告書

(H23.11.30)

## 1 事業概要

団体名 深谷市  
事業名 深谷市下水道事業  
所在地 深谷市上敷免2番地  
組織概要  
市長

環境水道部 下水道課 (職員数 19人) ・管理係 ・施設係 ・下水道工務係 ・排水設備促進係

### 【経営方針】

経営方針Ⅰ:「安心、快適な生活環境を支えます」  
経営方針Ⅱ:「能率的経営に努め、適正な原価に基づく利用者負担を求めます」  
経営方針Ⅲ:「環境に配慮した事業を推進します」

## 2 業務量

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度予定
年度末供用開始区域内戸数	23,519戸	28,454戸	30,464戸	30,616戸
うち下水道接続済み戸数	19,615戸	23,486戸	25,437戸	25,546戸
年間有収水量	5,723,590m <sup>3</sup>	6,709,693m <sup>3</sup>	6,834,970m <sup>3</sup>	6,926,170m <sup>3</sup>
1日平均有収水量	15,681m <sup>3</sup>	18,383m <sup>3</sup>	18,726m <sup>3</sup>	18,976m <sup>3</sup>
主要な建設改良事業費	818,096千円	1,172,760千円	865,857千円	831,885千円
うち汚水管渠分	575,067千円	656,030千円	302,101千円	463,718千円
うち浄化センター分	240,036千円	389,963千円	360,708千円	197,522千円
うち雨水管渠分	2,993千円	126,767千円	203,048千円	170,645千円



## 3 財務状況

### ●貸借対照表

(単位:百万円)

区分	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末予定
総資産	39,193	53,580	53,938	53,963
負債	531	149	236	96
資本	38,662	53,431	53,702	53,867
累積欠損金	0	0	0	0

### ●損益計算書

(単位:百万円)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度予定
総収入	1,291	2,410	1,663	1,675
経常利益(△損失)	0	686	0	△86
当期利益(△損失)	0	0	0	△86
減価償却前当期損益	494	712	724	748

※平成21年度から会計統合

## 4 経営指標等

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度予定	全国平均	類似団体平均
使用料単価(円/㎡)	81.59	89.30	88.70	92.51	134.20	147.39
汚水処理原価(円/㎡)	150.00	150.00	150.00	150.00	151.52	178.38
経費回収率	54.4%	59.5%	59.1%	61.7%	88.6%	82.6%
汚水処理原価(分流なし)	214.53	239.81	228.07	238.32	180.03	241.39
経費回収率(分流なし)	38.0%	37.2%	38.9%	38.8%	74.5%	61.1%
水洗化率	83.4%	82.5%	83.5%	83.4%	93.5%	88.6%
人口普及率	65.5%	70.4%	71.1%	71.5%	86.7%	74.2%

※平成21年度から会計統合

※平均値は、H21決算統計より

使用料単価・・・使用水量1㎡あたりの使用料。

汚水処理原価・・・使用水量1㎡あたりの汚水処理に係る経費。

経費回収率・・・汚水処理原価を使用料で賄っている割合。汚水処理経費に対して事業収入が不足する分は一般市税が投入されている。

分流なし・・・分流式下水道等に要する経費の繰り入れを行わない場合の値。

分流式下水道等に要する経費の繰り入れとは、使用料で賄うべき汚水処理経費を設定し、それを超過した部分を一般会計で負担する仕組み。

深谷市では150円/㎡を設定している。この繰り入れにより本来の汚水処理経費がわからなくなってしまうため、別途分流なしとして記載した。

水洗化率・・・下水道に接続できる区域に住んでいる人のうち、下水道に接続している人の割合。

人口普及率・・・市の下水道計画区域の中で、既に下水道に接続できる区域に住んでいる人の割合。

課題：経費回収率の向上

## 5 債務残高

(単位:千円)

区 分	残高(平成22年度末)	平成23年度償還予定	平成23年度借入予定	残高(平成23年度末予定)
企業債	18,623,414	1,301,228	475,700	17,797,886
借入金	0	0	0	0
その他金銭債務	141,027	141,027	1,000	1,000
計	18,764,441	1,442,255	476,700	17,798,886

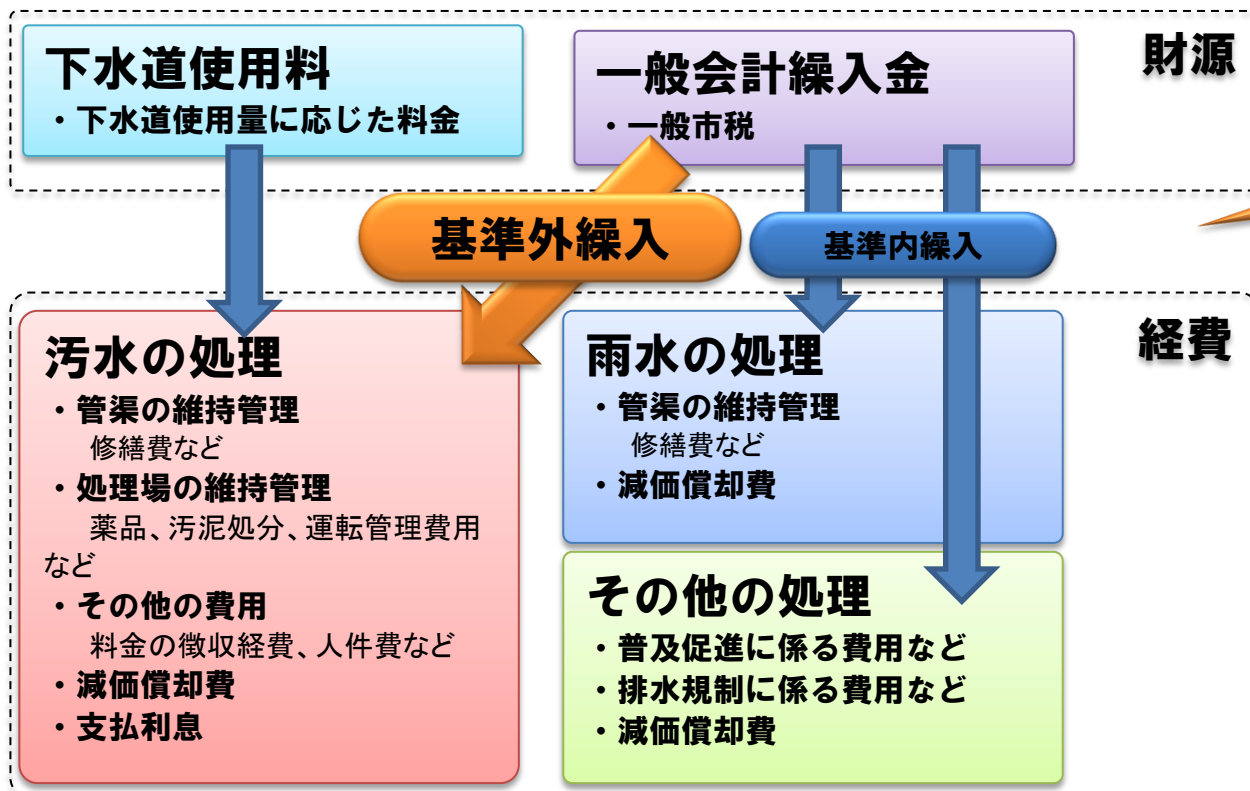
## 6 一般会計の関与

(単位:千円)

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度予定
収益的	一般会計繰入金	801,358	1,807,903	1,054,852	1,032,735
	うち基準内	432,677	1,403,637	637,842	722,360
	うち基準外	368,681	404,266	417,010	310,375
資本的	一般会計繰入金	580,555	299,926	731,944	658,173
	うち基準内	27,939	41,539	29,814	30,630
	うち基準外	552,616	258,387	702,130	627,543

課題：基準外繰入  
の解消

うち基準内・・・総務省の繰入基準に基く繰入金のこと。雨水処理経費や分流式下水道等に要する経費などの公費(一般市税)で負担する経費に対する繰入金。  
うち基準外・・・汚水処理経費のうち使用料等の事業収入が不足している分に対する繰入金。本来は下水道の使用者が使用料として負担すべきもの。



※ 受益者負担の原則から、  
一般会計からの「基準外繰入」  
は、本来認められません。

## 7 下水道使用料の状況

### ●下水道使用料料金表(H23.11現在)

水量(2ヶ月)	深谷処理区	岡部処理区	川本・花園処理区
～20m <sup>3</sup>	1,680円	2,100円	2,100円
21～40m <sup>3</sup>	31.5円/m <sup>3</sup>	105.円/m <sup>3</sup>	115.5円/m <sup>3</sup>
41～60m <sup>3</sup>	115.5円/m <sup>3</sup>	115円/m <sup>3</sup>	126円/m <sup>3</sup>
61～100m <sup>3</sup>	126円/m <sup>3</sup>		141.75円/m <sup>3</sup>
101～200m <sup>3</sup>	136.5円/m <sup>3</sup>	126.円/m <sup>3</sup>	157.5円/m <sup>3</sup>
201～400m <sup>3</sup>	147円/m <sup>3</sup>	147.円/m <sup>3</sup>	173.25円/m <sup>3</sup>
401～500m <sup>3</sup>		168円/m <sup>3</sup>	189円/m <sup>3</sup>
501～1000m <sup>3</sup>	157.5円/m <sup>3</sup>		
1001m <sup>3</sup> ～	168円/m <sup>3</sup>	199円/m <sup>3</sup>	204.75円/m <sup>3</sup>
1ヶ月20m <sup>3</sup> 料金	1,155円	2,100円	2,205円
1ヶ月40m <sup>3</sup> 料金	3,570円	4,400円	4,883円

課題：料金格差の是正

1ヶ月20m<sup>3</sup>の使用の場合、深谷処理区では1年で13,860円！  
その他の処理区でも全国平均に対してお得な設定です。

ぜひ、公共下水道に接続しましょう！

全国平均	累計平均
2,584円	2,547円

※H21決算統計より

## 8 経営基盤強化への取組状況

- ・組織の簡素化  
平成18年度まで各支所にあった4つの下水道課を、平成19年度から1つに統合した。
- ・会計の簡素化  
平成20年度まで、深谷処理区の会計とその他の処理区の会計として2つの会計があったが、平成21年度から1つの会計に統合した。

## 9 経費削減等への取組状況

- ・平成19年度から21年度までに実施された補償金免除繰上償還により、年利5%以上の高利子債の借り換えを行い、総額で約12億円の支払利息を削減した。
- ・平成20年度から浄化センターの運転業務を一括発注することで約1千2百万円/年の経費を削減した。
- ・職員数の削減(合併直後の平成19年度:23人→平成23年度:19人)

## 10 事業評価等の実施状況

### ●事業評価(H23.9.21実施)

事務事業名:下水道事業会計(企業会計)

1次評価 平成22年度の整備事業については、整備率が44.4%、普及率は52.6%となり、今後も公共下水道整備計画に基づき計画通り事業を進める必要があります。水洗化率については、深谷市総合振興計画での目標値は83.2%で、平成22年度の実績は83.5%と若干上回りましたが、今後も水洗化率の向上に努めたいと考えます。

整備状況については、未だに50%を下回っており、今後も継続して事業を行っていくべきと考えます。

2次評価 平成22年度については、ほぼ予定通りの整備が完了した。市街化区域の整備が完了するまでに、現在の状況では14年位かかる見込みで、今後においても計画的な整備を行っていかなければと考えている。